校長室から（R元年度）

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校　川上　隆　No．57

令和元年１２月２０日（金）発行

ある新聞記事より

毎日小学生新聞１２／２０

きょうの紙面

マルパカかあさんの モフモフEnglish 新鮮さを求めて　8面

3面に 6さいからのニュース ©あきやまただし

学びや　4面
岩田久道先生

日本史マイショウ新聞　6面
本能寺の変のあと

論語くん　7面
楽しく生きる

ニュースの達人　池上彰さんに聞く

毎小読者のための「新聞の読み方」

「へえー」で視野広がる

ジャーナリストの池上彰さんは、新聞やテレビなどでたくさんのニュースを伝え、解説しています。毎日小学生新聞で毎月1回、1面で連載している「教えて！　池上さん」は300回を超えました。ニュースの達人、池上さんに改めて、毎小読者のために役に立つ「新聞の読み方」を聞いてみました。【太田阿利佐】

いつもニュースをやさしく、分かりやすく説明してくれる池上さん。今、心配事があるといいます。

「最近、大人も子どもも新聞をあまり読まないでしょう」

確かに、インターネットだけでニュースを読む人が増えました。自分が読んだニュースの記録から、同じ分野のニュースが自動的に表示されたりして便利です。



◇池上彰さん［ジャーナリスト］　1950年長野県生まれ。NHKで報道記者やニュースキャスターを務め、2005年からフリーに。名城大学教授、東京工業大学特命教授。著書に「池上彰の親子で新聞を読む！」「池上彰のいつものニュースがすごくよくわかる本」など多数。

「そうですね。でも、それでは、自分が知りたいことは知ることができるんだけど、それ以外のことは全然知らない、非常に視野が狭くなってしまうんです。新聞を読むと、毎小でも大人の新聞でも、知りたい記事の隣に、全く関心がなかった記事もあって、その見出しが自然に目に入ってくるでしょう。そこで、へえーこんな事もあるんだ、って視野が急激に広がっていくんです」

そういえば、毎小を長い間読んでいる読者と会うと「こんな話も知っているの！」と驚くことがあります。

「中学入試でも、今は社会科で時事問題が出ることが多いですね。入学試験というのは『この問題を解く力がある子に、うちの学校に入ってほしい』という、学校からの呼びかけです。時事問題を出すってことは、世の中の動きに興味や関心を持っている子に入学してほしい、ってことです。社会に興味や関心を持っていれば、中学でもいろんなことを知りたくなって、きっと伸びていく子だろうと考えているのでしょう。だから、新聞を読むのは視野を広げると同時に、受験勉強にもなって、結果的に一石二鳥でお得だよ、と伝えたいですね」

「まんべんなく」じゃなくていい

子どもが新聞を読むときに、こういうふうに読んだ方がいいというのはありますか。まんべんなく読むとか、一つのテーマを決めて読むとか。

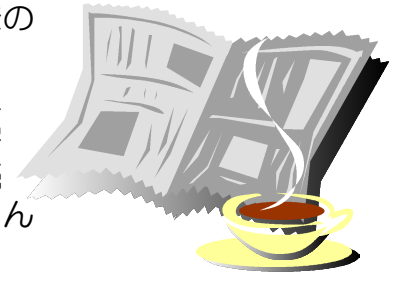
「あ、新聞をまんべんなく全部読もうとするからみんな嫌になっちゃうんですね。それはやらない方がいいと思いますよ」

＝2面につづく

新聞を使った学習より

～５年生のＮＩＥ（Newspaper in Education）学習を終えた感想より～

- 新聞とは、大人が読むものであって、子どもが読むものではないと思っていたけど、大人が読むようなかたっ苦しい記事だけでなく興味のわく記事も結構載っているんだなと思った。また、私の興味のわく記事に、大人たちも癒やされているんじゃないかと思った。
- 新聞について学習する前は、新聞は文字が多くて大人の世界だと思っていたけど、遠足で朝日新聞社に行って新聞の写真の構成などをくわしくおもしろく知れて、ＮＩＥの学習をしてよかったと思いました。学習をしている間は、学校に届けてもらった新聞を読むようになり大人になった気分でした。新聞が好きになりました。これからも新聞をどんどん読み続けていきたいです。



おもしろいところだけでOK

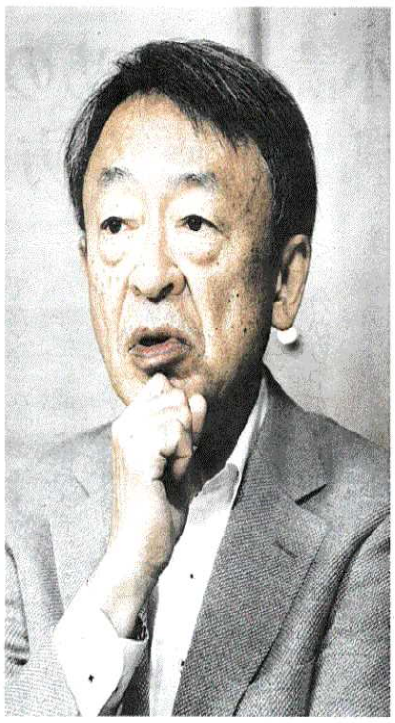
だんだん分かる

池上さんに聞く「新聞の読み方」

人に説明するつもりで

―1面からつづく

テレビなどのニュース解説で活躍するジャーナリストの池上彰さん。新聞の読み方について、まんべんなく読まなくていいと強調します。



インタビューに答える池上彰さん

「新聞を読めって言われて、分からないのに読むから嫌になってしまうんです。そうじゃなくて、『おっ』と気になった、おもしろいものだけ読む。毎小も、毎日最初から最後まで読まなきゃ、って義務感を持ったとたんに嫌になるでしょう。1面を見て関心がなければ、2面、3面を見て、最終面までおもしろくなかったらそれはそれでいい。で、翌日、3面にちょっと関心があるものが出てたから読む。それが積み重なると、だんだんいろんな記事が分かるようになるんです」

池上さんはスクラップはしますか。

「最近はスクラップする時間がないので、ビリビリとページごと破いて、クリアファイルに突っ込んでおきます。関連する記事や、雑誌の記事も破いて、一緒に入れておきます」

私も同じようなことをします。集めた記事を見直すと、自分はこんなことに興味があったんだと気が付きます。

「そうなんです。自分が何に関心を持っているかって、意外と自分では分からない。1か月に1回くらい、取っておいた記事を見直すと、進路や部活を選ぶ時のヒントになりますよ」

一本一本の記事を読む時、こういうことを考えて読むとおもしろいということはありますか。

「ただ、勉強のために読んでも頭に入らないんですね。アウトプット(出すこと)を意識しながら、インプット(入れること)をしましょう。例えばおもしろい話をみつけたら、友だちに教えたくなるでしょう。その時、友だちに説明するにはどうしたら分かりやすいかなと考えながら読むと、内容が頭に入ります。私もニュースの番組を担当する時、そうしています」

人に伝えることを意識するといいんですね。記者も、記事を書きながら「ここがよく分かっていないなかったな」と気づくことがあります。

「例えば友だち同士で気になったニュースを説明しあいっこしてみるとか、親やおじいちゃん、おばあちゃんに説明してみるとかをやってみるといいと思います」

みなさん、ぜひ参考にして「ニュースの達人」になってください。【太田阿利佐】



- 学習をする前は、字がすごく多いしほとんど興味の無い記事だったので読もうとしなかったけれど、学習してからは新聞を読んで文章力、集中力、読解力、想像力、内容をまとめる力、記事のいいところなどを見つける力がついたと思うし、新聞には何度もいつでも読めるといういいところもあると知ったので、学習をする前と違って少しずつ新聞を読むようになりました。
- 新聞を作って学習の振り返りをして、私は以前より新聞についての考えが大きく変わっているなぁと思いました。前は字が小さくて多いから読むのがめんどくさいと思っていました。でも、学習をして新聞について知ると、字が小さく多いのは、くわしく記事を書くために小さい字で多くの文章を書いているのかなぁと思いました。
- 新聞の学習をする前は、新聞には興味がなくて文字がいっぱいで習っていない漢字があったりしてあまり読みたくないなと思っていました。だけど新聞社に行って、新聞の作りや新聞についていろんなお話を聞いて新聞のことがよくわかりました。学校で新聞を作るときに、記事を選ぶ力、読み取る力、文章力、みんなと協力する力などいろいろな力がついたと思いました。この学習を始めて、新聞が大好きになりました。もっと新聞を読んで、いろんなことが知りたいと思いました。



＊家で新聞を読んでみませんか？　４年生の教室前廊下の隅にある新聞コーナーでも小学生新聞が読めますよ。